

## 第2 問題作成部会の見解

### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しない。
- 教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。  
また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 問題作成に当たっては、CEFR等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。  
その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

### 2 各問題の出題意図と解答結果

センター試験から共通テストへの移行に伴い、大問ごとに問うポイント（文法・語彙など）を明確にするとともに、資料の読み取りや長文の読解に重点を置いた問題構成に変更を行った。

これまでのセンター試験における問題作成の大枠と良問の蓄積を受け継いだ上で、基本的知識を問う問題と、思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスに配慮し、問題の数、配列、配点を見直した。具体的には、語彙問題の数を減らし、設問形式も語彙知識を直接問うものから、語句の用法に基づいて正解を導くものに変更し、語彙問題減少分を読解問題に重点化して配分した。また、大問の配列を、発音、文法、語彙・表現、整序作文から意味内容、読解へと問題の漸進性に配慮して変更した。今年度もこの形式を踏襲して問題作成を行った。

なお、フランス語の表記は従来の正書法に従っているが、近年フランスの学校教育に導入された新たな正書法と齟齬が生じないように配慮した。最近の傾向を踏まえ、また受験者に分かりやすくととの配慮から、大文字にもアクセント記号を付けている。

#### 第1問 発音問題

つづり字の読みを通して、「聞く、話す」能力の基礎となるフランス語の発音に関する基本的知識を問う問題である。つづり字と発音の関係の理解度を試すために、できるかぎり多様な出題を心がけた。リエゾンについての知識を問う問題では、語句レベルのみならず、文中でのリエゾンも積極的に扱うこととした。基本的な発音の規則を正確に把握していれば容易に正解に到達でき、難易度は総じて適切であったと思われる。

#### 第2問 語形変化の問題

語形変化を文法・語彙の知識と関連付けて問う複合的問題である。できるだけ多様な品詞にわたって出題するよう配慮した。文法、つづり字に関する基礎的な知識を広く試すよう努めた。

具体的には、問1は形容詞récentから副詞récemmentを問う問題、問2は動詞mentirから名詞menteuseを問う問題、問3は名詞satisfactionから動詞satisfaireを問う問題、問4は動詞peindreの過去分詞から現在形の活用を問う問題、問5は形容詞fouの女性形folleを問う問題であり、いずれも基礎的な知識により正答可能な良問であったと考える。

#### 第3問 文法の問題

文法に関する基本的知識を問う問題である。基本的な文法事項を、偏ることなく、広く問う

多様な問題の作成を心がけた。また、他の問題と同様、問題文についても、実際に使われる自然なフランス語になるように配慮した。

具体的には、接続詞句、副詞、指示・関係代名詞、形容詞、不定代名詞、動詞、所有代名詞といった多様な文法事項について、基礎的な知識を問う良問であった。

#### 第4問 語彙・表現の問題

語彙・表現に関する基本的知識を問う問題である。与えられた文脈の中で、基本的な言い回しや慣用表現・熟語に関する知識を問う問題の作成を心がけた。また、他の問題と同様、問題文についても、実際に使われる自然なフランス語になるように配慮した。

具体的には、第3問の文法問題と峻別するために、問1、問3、問4、問5は、基本語義を問うものとし、問2、問6は、熟語表現を問うものとしたが、いずれも文全体を読まねば正答を導けないように工夫した。

#### 第5問 対話完成問題

与えられた会話の一部から、日常生活における自然な状況を判断し、対話を完成させる問題である。具体的で想像しやすい場面や状況を設定しつつ、内容が多様なものになるよう心がけた。また、できる限り明解なフランス語による表現を採用した。さらに、会話の一部だけを読んで正答を導くことができる問題ではなく、会話全体を読まなければ正答できない問題を作るようにした。

問1は、会話状況を理解しづらかった可能性があるが、対話全体をじっくりと読めば正答に至ることができる問題であった。問2は《c'est ça qui est bien》の《ça》の内容を理解するのが難しかった可能性が考えられるが、文脈の理解を適切に測ることができる問題だった。

#### 第6問 整序作文問題

例年の出題形式・傾向どおり、与えられた日本語を手掛かりに、平易な語彙・表現を用いてフランス語で作文する能力を測ることを目的としている。問題の日本語文は、自然でありながらも正答を導きやすいものとなるよう配慮した。正しい語順を理解していなければ正答とならないよう工夫するとともに、空欄の位置によって難易度を調整している。

問2は《avertir + 直接目的語 + de ~》の表現を問う問題だった。問3は《venir voir + 直接目的語》の知識を問う問題であり、フランス語で作文する能力を適切に測ることができる問題だった。

#### 第7問 資料・会話読解問題

図や表を用い、日常生活や身近な問題に関連したフランス語の知識・読解力を問うとともに、それに基づいた思考力・判断力を試す問題である。受験者にとって親しみやすい題材となるよう心がけるとともに、図表等の資料に基づく適当な分量の文章または会話とした。AとBの中間に分かれ、それぞれ、資料に基づいた会話を提示し、資料と会話を関連付けながら状況を読み解く能力を問うている。具体的には、Aは「ある町のごみ収集についての案内」、Bは「オンライン旅行についての案内」を題材とした。

その結果、高校生の知識と読解力を多角的に問う問題となった。Aについては、問1及び問2は、資料の内容に関する会話文を読み、空欄を補充させる問題、問3はごみ収集のルールに適合した行動を選択させる問題とした。Bは、近年の社会環境の変化を踏まえ、リアルタイム配信によるオンライン旅行の案内を資料とするものである。問1は人物についての記述と資料の内容の整合性を問う問題、問2は資料の内容に関する会話文を読み、二箇所の空欄を補充する問題、問3は資料の内容に一致する記述を選択する問題、問4は追加資料に基づいて人物についての記述と資料の内容との一致を問う問題とした。

いずれも、受験者のフランス語読解力を試す上で、適切な問題であったと思われる。

#### 第8問 長文読解問題

論旨が明快で論理に一貫性のある文章を素材として選び、事柄の因果関係や対立などを正確に読み取る力や、文意を正確に把握する力を測る問題である。従来の出題方針を踏襲し、なるべく平易な表現、親しみやすい題材を選択するようにした。また、論旨を追いやすくするように十分に配慮した。常識だけで正答にたどり着けるような問題や、単語や成句の知識を問うだけの問題は排除するよう心がけた。また、論理の展開に即して内容を把握できているかを試す問題を設けた。その結果、思考力・判断力を的確に測ることが可能となる問題となった。

問1は第一段落から数語を抜き、フライドポテトにまつわる文章を文脈上捉えられているかを問う問題、問2は下線部の語が示す内容を問う問題、問3は前後の文脈から適切な動詞を選ぶ問題、問4は接続語句を選択する問題、問5は文脈に従って文を完成させる問題、問6は下線部の内容を正確に把握し、最も近い言い換え表現を選択する問題、問7は本文の内容と一致する文を二つ選択する問題、問8は本文の内容から適切なタイトルを選択する問題など、内容の理解度を多角的に測る良問であった。

### 3 ま と め

以上、問題作成方針、問題形式と内容、高等学校教科担当教員から寄せられた意見を踏まえて解答結果を分析・検討し、問題作成分科会としての見解を述べた。

共通テストへの移行後三度目となる今回の試験については、識別力の高い問題が多く、幅広い受験者層への対応が的確であったと判断できる。平均点も望ましい点数に達しており、難易度としても試験の目的に適うものであった。高等学校における学習範囲を逸脱しない適切な出題内容を今後も心がけ、極度に難易度の高い問題や出題傾向の偏りを避ける配慮を維持しつつ、共通テストとして完成度の高い問題を作成し続けることを継続目標とする。

なお、高等学校教科担当教員の方々をはじめ、各方面から有益なご意見を頂いたことに末筆ながら改めて御礼を申し上げたい。